

クラスジャパンのミッションに関する真意

2月にクラスジャパンのプロジェクトが発足してから、不登校のお子様を持つ親御様や自治体関係者の方々から大変多くのお問い合わせをいただきました。

特に、「学校に通えない、家にひきこもっている我が子の状況を変えることができるかもしれない」という期待のお声を多数いただいております。全国の自治体と連携して活動していきたいと思っております。ただ、そのような中で、当財団法人ホームページのミッションに記載しております「日本全国の不登校者全員の教育に取り組み、通学していた学校に戻す」この表現が、我々の真意でない意味で受けとめられたところがございます。

理事・評議員メンバーは、物理的な学校復帰だけが唯一の不登校対策だとは決して考えておりません。我々の活動のガイドラインとなっている教育機会確保法では、学校復帰を前提としていた従来の不登校対策を転換し、学校外での多様で適切な学習活動の重要性を認め、不登校児童・生徒の無理な通学はかえって状況を悪化させる懸念があるため、子どもたちの休養の必要性を認めています。

クラスジャパンは、全国約13万人の不登校児童生徒の中で、学校外機関である「民間フリースクール」や「適応指導教室」にも足が向かない児童生徒に対し、自宅学習の充実・地域の学校外での学習・様々な大人と関わり社会性を身につける場の提供、そのような環境づくりをしたい、との思いから発足しました。その必要性を日々強く感じているメンバーがここには集っております。

ミッションに関しては、確かに「学校に戻す」という表現をしましたが、我々は、教育基本法第4条（義務教育）に「国民は、その保護する子女に、九年の普通教育を受けさせる義務を負う」とあるように、学校に登校していない期間・自宅にいる期間においても学校に通った場合と同等の学習を十分に受けられる環境作りと実践を目指しています。

外的な要因等があり、必ずしも学校復帰を望まない場合でも、そのような環境が実現すれば、登校していない期間の不安感を少しでも払しょくし、義務教育終了時の進路の幅を狭めないことにもつながります。これが、我々が言う「学校復帰」の意味です。

急ぎ作ってきた財団のホームページであり、誤解を招くような表現があったことにつきましてはお詫びを申し上げます。ただ、クラスジャパンのビジョンである「大人全員が積極的に子ども教育に関わり、子どもを教育するスタイルを築く」という活動は、私たちが覚悟を持

って率先し、実現していきます。学校教育に関わってきた経験のある無しに関わらず、多数の大人が集結し、不登校になっている子どもたちと関わり、社会で活躍する力を養う仕組みを作ります。ネット上でもリアルな場でも。

この度は、改めて多くの方に信頼されるプロジェクトを推進したいと思い、私たちの真意を記させていただきました。

2018年3月7日
一般財団法人 クラスジャパン教育機構
理事長 中島 武